

■ 書 評 ■

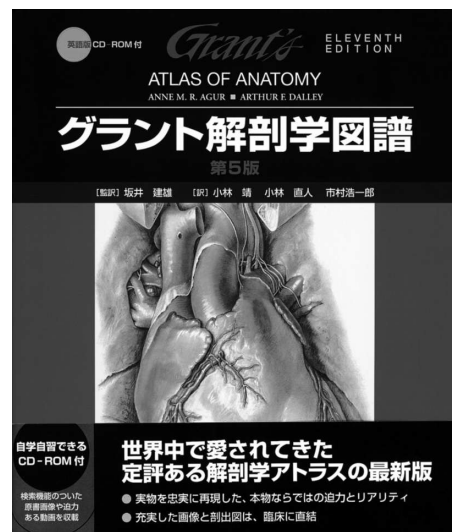
グラント解剖学図譜

(英語版 CD-ROM 付 第 5 版)

坂井 建雄 ● 監訳

小林 靖, 小林 直人, 市村 浩一郎 ● 訳

富山大学解剖学教授 大谷 修



本書は、JCB Grant 教授により 1943 年に出版された“Grant's Atlas of Anatomy”の第 11 版の日本語訳である。

本書の最大の特長は、古典的な解剖図のすばらしさにある。この図譜の多くの解剖図は、カナダのトロント大学の解剖学博物館に展示してある解剖標本を、落ち着いた色彩で美しく、正確に描いたものである。十数年前、トロント大学を訪れた際に、解剖学博物館に立ち寄ってみた。そこには、Grant 教授が作った、複雑な構造をわかりやすく解剖した標本が展示してあり、それを学生たちがスケッチしている光景を見ることができた。このように、本書の主要な解剖図は実物を忠実に再現してあり、したがってわかりやすく、実習室で解剖しながら、あるいは遺体のない時でも、予習や復習に役立つのである。

次に、本書の第 2 の特長について述べたい。私は、解剖学教育の際に、KL Moor と AF Dalley による“Clinically Oriented Anatomy”を愛用している。複雑な人体の構造の

理解を助ける表や、わかりやすい模式図が豊富に掲載されているからである。本書には、それらの多くが転載され、さらに新しい模式図も加えられて、理解しやすくなっている。図の説明が、大変簡潔であることも本書の優れた点である。長い文章を読むのが苦手な現代の学生諸君でも十分に読みこなせる長さの文章である。

本書の第 3 の特長は、体表解剖の写真が加えられたことである。体表解剖は身体診察の基礎として重要ではあるが、解剖学の学習では、ややもすれば御座なりにされがちである。体表解剖図と深部の解剖図とが見開き 2 ページにまとめてあり、医学生にとって大変役に立つと思われる。本書を参考にしながら、一人で鏡を見て、あるいは友人と互いに身体診察の練習をすれば、必ず医師として重要な身体診察の基礎が身に付くであろう。

本書の第 4 の特長として、MRI, CT, 超音波エコー, X線写真などの多様な画像情報と、これらに対応した模式図が各章末に断層画像として

まとめてあることである。これは学生のみならず、医療者にも大いに役立つものである。

図譜は持ち歩くには少々重いかもしれないが、ノートパソコンを持ち歩く人のために CD-ROM が付いている。これならどこでも図を見ることができる。幸い、この CD-ROM は英語版なので、将来のために英語を学習する教材としても役立ちそうである。

要するに本書は、実習室で解剖しながら、あるいは遺体のない時に解剖学を学習する際に、さらに臨床に際しても、生涯役立つ解剖学図譜といえる。本棚に飾っておき、折に触れて取り出して見るだけでも楽しく、学ぶことの多い解剖学図譜である。

A 4 変型, 896 頁, 2007 年

定価 15,750 円

(本体 15,000 円 + 税 5 %)

[ISBN 978-4-260-00346-9]

医学書院刊